

2021年6月7～8日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

## 【水温の鉛直分布】

表層（深度5m）の水温は、室蘭沖(St.19)を除き12℃前後でほぼ平年並みとなっています。深度10～30mの水温は概ね7～12℃台で、平年並みもしくは平年に比べ1～3℃高くなっています。一方、深度50m以深の水温は平年に比べ1～2℃低くなっています。

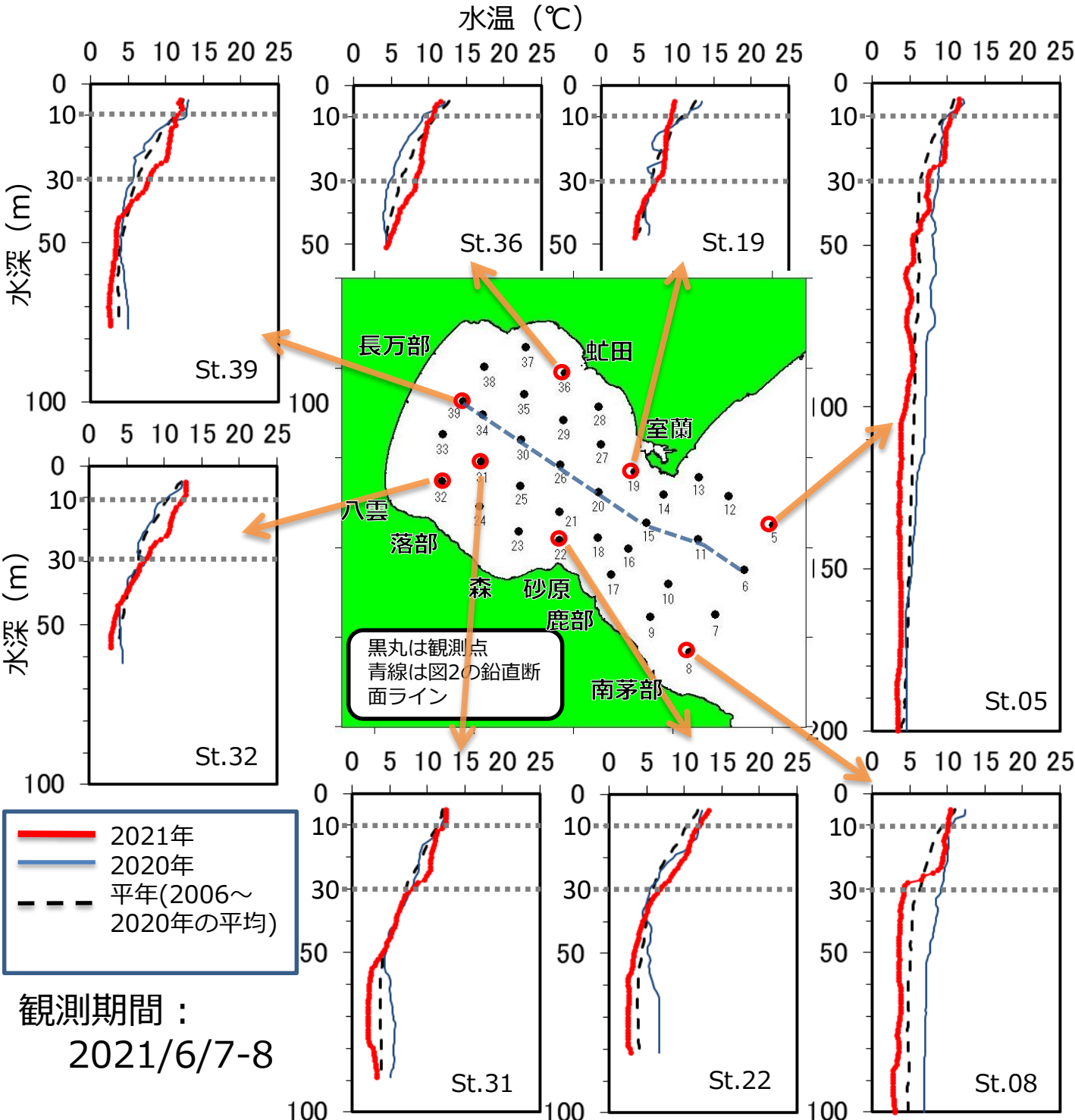


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

**【水温，塩分の鉛直断面分布…昨年との比較】**

今年の深度20m以浅は，水温が10℃以上，塩分が32.0以下で，昨年とほぼ同様の環境です。一方，深度40m以深の水温は昨年よりも低く，湾内の50～80mには親潮系水（水温3℃以下）が分布しています。また，昨年は湾外から湾口部の深度40m以深に津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）が分布していましたが，今年はまだ出現していません。

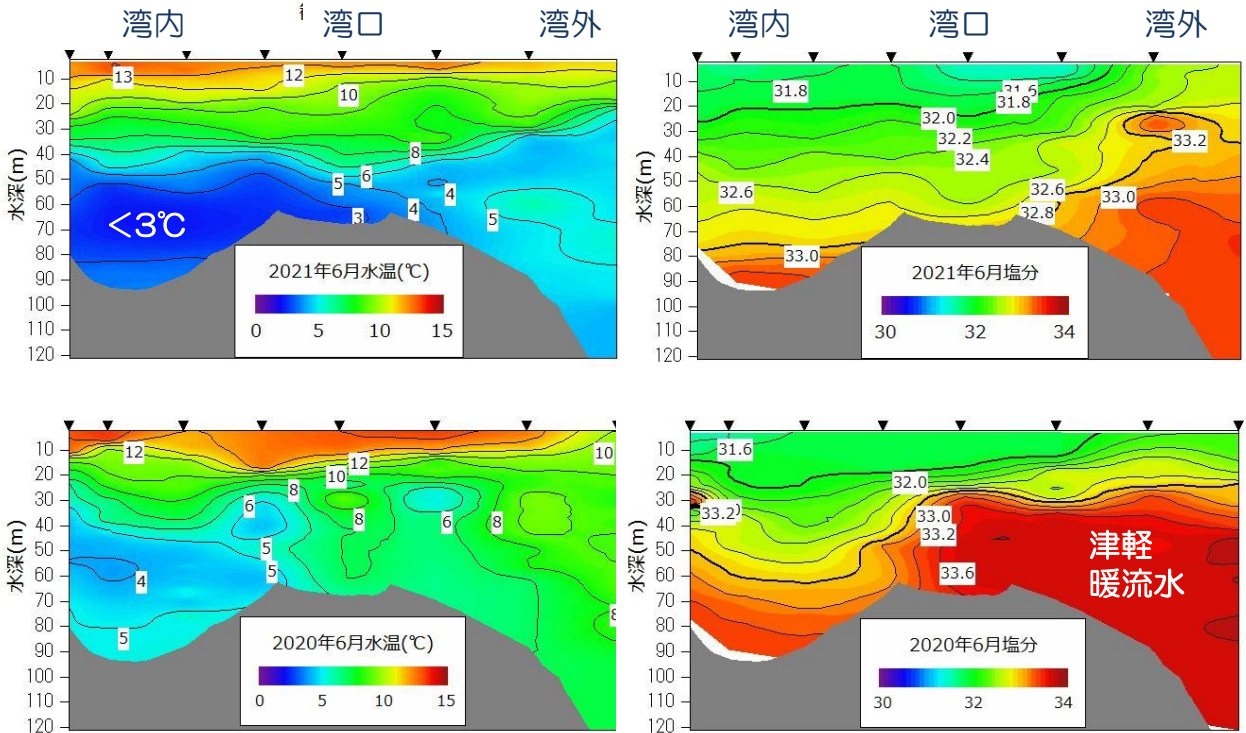


図2 水温・塩分の鉛直断面図（上段：2021年，下段：2020年）  
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 上部の▼は観測点

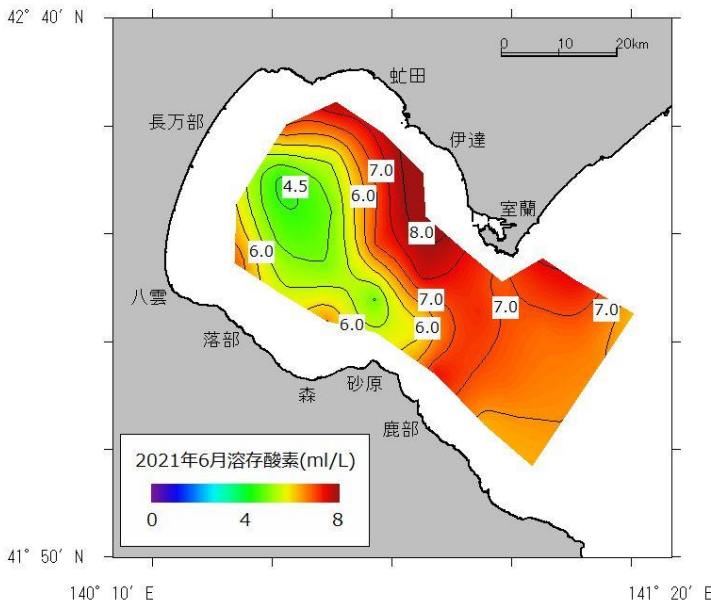


図3 溶存酸素の分布（海底上5m）

**【溶存酸素の分布】**

海底上5mの溶存酸素量は，4.3～8.5ml/Lでした。貧酸素水（3.0ml/L以下）は見られませんが，渡島側の水深が深い場所は4.5ml/L以下で，5月（5.0ml/L）よりも値が低くなっていました。